

# 第122期 報告書

2013年4月1日 ▶ 2014年3月31日

## CONTENTS

---

株主の皆様へ…1

中期経営計画について…4

領域別および製商品別の概況…5

研究開発の状況…7

トピックス…9

財務諸表の概要…11

株式の状況…13

会社の概要…14



鳥居薬品株式会社

証券コード 4551

# 株主の皆様へ



代表取締役社長 **高木正一郎**

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

第122期の経営成績につきましてご報告いたします。ご高覧頂きますようお願いいたします。

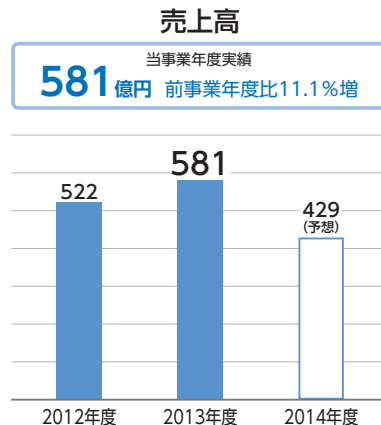
当社は今後とも「世界に通用する医薬品を通じて、お客様、株主、社会、社員に対する責任を果たすとともに、人々の健康に貢献する」という企業ミッションのもと、持続的成長の実現に向け、全社一丸となって取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

2014年6月

## 決算 ハイライト

(単位：億円)



※決算期変更に伴い、2014年度は2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月決算での予想となります。

## 2013年度の業績について

医薬品業界を取り巻く事業環境は、後発医薬品の使用促進策等の医療費適正化に向けた医療制度改革の推進により、引き続き厳しいものとなりました。

このような状況の下、当社におきましては、製品別プロモーションの徹底、製品ライフサイクルマネジメントの強化による事業成長に加え、消費税増税前の一時的な需要増の影響による「レミッチカプセル」「ツルバダ配合錠」等の伸長や、2013年5月の「スタリビルド配合錠」の販売開始もあり、売上高は、581億円と前事業年度に比べ58億円(11.1%)増加しました。

費用面におきましては、売上原価は売上高が増加したことに加え、販売品目の構成が変化したことにより262億円と前事業年度に比べ34億円(15.0%)増加し、販売費

及び一般管理費は研究開発費が減少したものの、販売促進費等が増加したことにより268億円と前事業年度に比べ1億円(0.7%)増加しました。

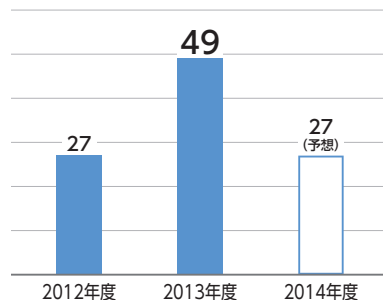
以上の結果、営業利益は49億円と前事業年度に比べ21億円(78.5%)増加し、経常利益は51億円と前事業年度に比べ21億円(73.6%)増加しました。当期純利益につきましては、33億円と前事業年度に比べ15億円(81.2%)増加しました。

また、研究開発の面でも、スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「シダトレン スギ花粉舌下液」、高リン血症治療剤「リオナ錠」の製造販売承認を取得したほか、室内塵ダニアレルギー疾患を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「TO-204」、アレルギー検査薬「TO-205」につきまして、製造販売承認申請を実施する等大きな進展がありました。

## Financial Highlights

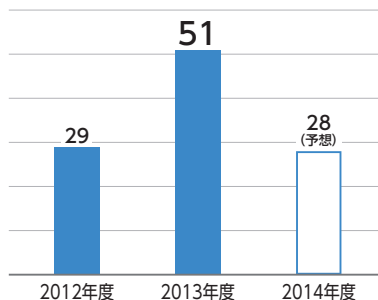
### 営業利益

49億円 前事業年度実績  
前事業年度比78.5%増



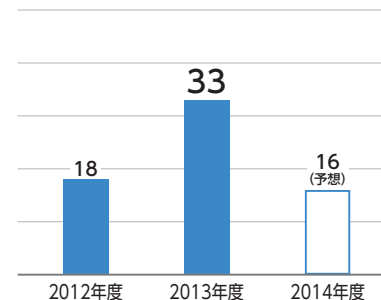
### 経常利益

51億円 前事業年度実績  
前事業年度比73.6%増



### 当期純利益

33億円 前事業年度実績  
前事業年度比81.2%増





## President's Message

た。これにより、経過期間である2014年度は、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月決算となります。

2014年度につきましては、2013年度第3四半期累計期間との比較において、売上高は、消費税増税前の一時的な需要増に伴う反動減に加え薬価改定の影響により、429億円と減少する見込です。

また、利益面につきましても、研究開発費は減少するものの、販売品目の構成変化や薬価改定に伴う原価率の上昇等により売上原価が増加することに加え、新製品に係るプロモーション費用および人件費等が増加するため、営業利益は27億円、経常利益は28億円、当期純利益は16億円と各利益とも減少する見込みです。

なお、配当金につきましては、1株当たり年間40円(中間配当金(9月30日を基準日)20円、期末配当金20円)を予定しております。

### 2014年度の見通しについて

当社は、親会社である日本たばこ産業株式会社(以下、JT)が決算期を変更したことに伴い、経営計画の策定、業績管理、連結決算への対応等について、引き続き効率的な事業運営を維持するため、当社の事業年度をJTと一致させることを目的に、決算期を毎年3月31日から毎年12月31日に変更することを決定し、2014年6月25日開催の第122回定時株主総会において、定款の一部変更をご承認いただきまし

#### ●2014年度業績予想(9ヶ月決算)

	2013年度 第3四半期累計実績 (4月~12月の9ヶ月)	2014年度 業績予想 (4月~12月の9ヶ月)	増減額
売上高	435億円	429億円	△6億円
営業利益	39億円	27億円	△12億円
経常利益	40億円	28億円	△12億円
当期純利益	23億円	16億円	△7億円

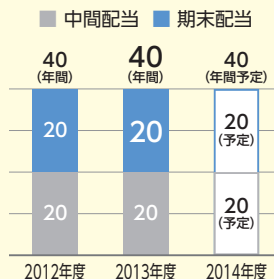
### 配当について

#### 配当方針

当社は、株主の皆様への適正な利潤の還元を経営の重要課題の一つと認識し、剰余金の配当につきましては、安定的かつ継続的に実施することを基本方針としております。

上記基本方針の下、経営体質の強化や将来の事業展開等を目的とした中長期的な視野に立った投資等に備えることも勘案したうえで、株主の皆様へ安定的還元を行ってまいります。

#### 1株当たり配当金 (単位:円)



2013年度期末配当支払開始日 6月26日

当社におきましては、今後の持続的成長を確かなものとするため、2013年度から2015年度までの3ヶ年の中期経営計画を策定し、取り組みを進めております。2年目である2014年度の業績予想(※)および最終年度である2015年度の経営目標については、以下の通りとなっています。

※決算期変更に伴い、2014年度は9ヶ月決算となりますが、参考として変更後の事業年度にあわせて1月～12月の12ヶ月情報を記載しています。

## ▶ 2014年度の見通し(12ヶ月情報)

2014年度の12ヶ月予想につきましては、売上高は、薬価改定の影響はあるものの、「スタリビルド配合錠」の伸長や「リオナ錠」の販売開始等により増加する見込みです。一方、販売品目の構成変化や薬価改定に伴う原価率の上昇等により売上原価が増加するため、営業利益、当期純利益は前年と同程度となる見込みです。

### ● 2014年度業績予想(12ヶ月情報)

	2013年 1月～12月	2014年 1月～12月	増減額
売上高	552億円	574億円	+21億円
営業利益	36億円	37億円	+0億円
当期純利益	23億円	25億円	+2億円

#### ▶ 2013年1月～12月の数値

2013年1月～3月(2013年3月期第4四半期実績(12ヶ月)～2013年3月期第3四半期実績(9ヶ月))  
+2013年4月～12月(2014年3月期第3四半期実績)

#### ▶ 2014年1月～12月の数値

2014年1月～3月(2014年3月期第4四半期実績(12ヶ月)～2014年3月期第3四半期実績(9ヶ月))  
+2014年4月～12月(2014年12月期通期予想)

## ▶ 中期経営計画最終年度の経営目標について

中期経営計画の最終年度である2015年度経営目標につきましては、決算期変更による期間の変更(2015年4月～2016年3月→2015年1月～2015年12月)はあるものの、目標の変更は行いません。新製品の早期浸透、育成に注力し、より一層の事業成長を図ってまいります。

また、配当方針につきましても変更せず、1株当たり年間48円を目指します。

### ● 2015年度経営目標

	2015年度経営目標 決算期変更前 (4月～3月)	2015年度経営目標 決算期変更後 (1月～12月)	増減額
売上高	630億円	630億円	—
営業利益	55億円	55億円	—
当期純利益	35億円	35億円	—
1株当たり年間配当金	48円	48円	—

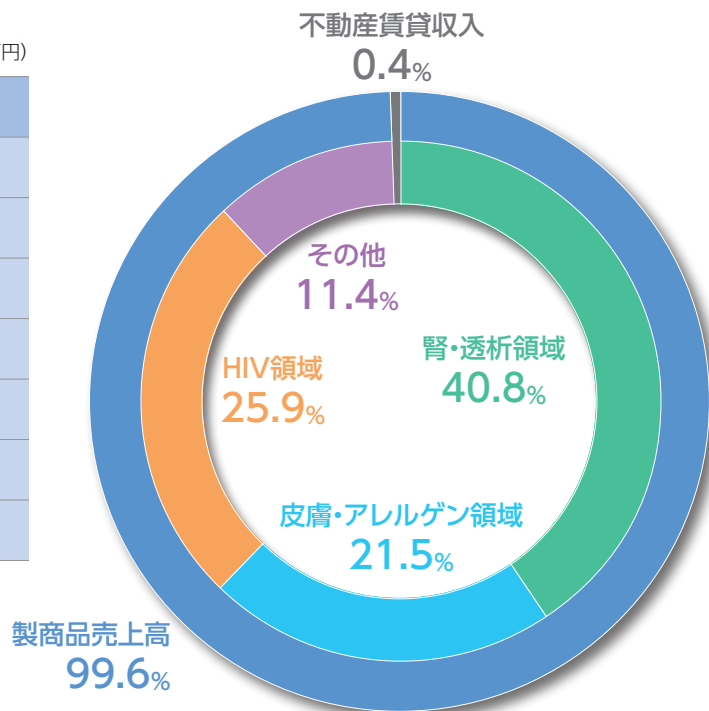


# 領域別および製商品別の概況

## 領域別売上高

(単位：百万円)

	2012年度	2013年度
売上高	52,294	58,109
製商品売上高	52,067	57,886
腎・透析領域	21,373	23,713
皮膚・アレルギー領域	11,942	12,511
HIV領域	12,073	15,058
その他	6,678	6,603
不動産賃貸収入	226	223



## 主要製品・商品のご紹介

### レミッチカプセル

経口そう痒症改善剤



血液透析患者の既存治療抵抗性の痒み(従来の止痒薬では効き目が不十分な痒み)を改善する薬剤です。

### 注射用フサン

蛋白分解酵素阻害剤



急性肺炎や汎発性血管内血液凝固症を治療する薬剤です。また、血液透析等の血液浄化療法を施行する際に回路内で血液を固まらないようにする薬剤でもあります。

### ユリノーム錠

尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤)



体内で増えた尿酸を尿中に排泄して高尿酸血症を改善する薬剤です。

## Overview of area-specific and product-specific

### 製商品別売上高

(単位：百万円)

品 名		2012年度	2013年度
レミッチカプセル	経口そう痒症改善剤 腎・透析領域	12,106	15,019
ツルバダ配合錠	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV領域	11,594	13,428
アンテベート <sup>※1</sup>	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚・アレルギー領域	6,766	7,142
注射用フサン <sup>※1</sup>	蛋白分解酵素阻害剤 腎・透析領域	4,533	4,020
ユリノーム錠 <sup>※1</sup>	尿酸排泄薬(高尿酸血症治療剤) 腎・透析領域	2,751	2,395
ケイキサレート <sup>※1</sup>	高カリウム血症改善剤 腎・透析領域	1,982	2,278
ビオスリー	活性生菌製剤(整腸剤) その他	1,886	2,066
ドボネックス軟膏	尋常性乾癬治療剤 皮膚・アレルギー領域	1,892	1,907
ゼフナート	抗真菌薬 皮膚・アレルギー領域	1,505	1,614
ロコイド <sup>※1</sup>	外用副腎皮質ホルモン剤 皮膚・アレルギー領域	1,350	1,390
マグセント	切迫早産における子宮収縮抑制剤・子癇の発症抑制・治療剤 その他	1,270	1,249
スタリビルド配合錠 <sup>※2</sup>	抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬) HIV領域	—	1,220
その他製商品		4,428	4,152

※1 自社品

※2 「スタリビルド配合錠」は、2013年5月から販売を開始しております。

#### アンテベート

外用副腎皮質ホルモン剤



アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎等の皮膚疾患に対して炎症を抑えることによって症状を改善する薬剤です。

#### ツルバダ配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



HIV逆転写酵素を特異的に阻害することによりHIVの増殖を阻害する薬剤です。

#### スタリビルド配合錠

抗ウイルス化学療法剤(抗HIV薬)



4成分を配合した抗HIV薬で、国内で初めて、他剤と併用しない1日1回1錠の服薬でHIV感染症の治療が可能となります。HIV-1のインテグラーゼおよび逆転写酵素の活性を阻害し、感染力のあるウイルスの増殖を抑える薬剤です。

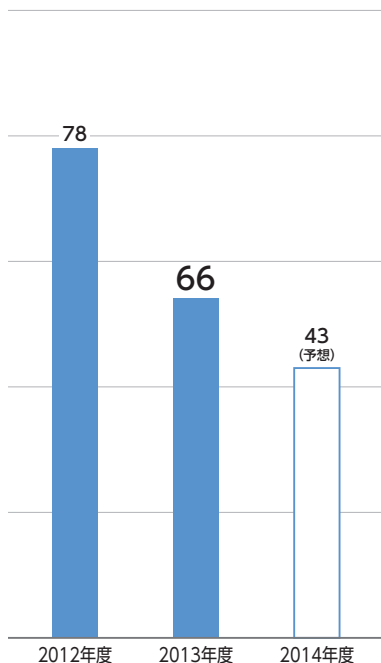
# 研究開発の状況

主要な研究開発の状況につきましては、右図表の通りとなっています。

前回(第122期中間報告書)ご報告以降の変更点としましては、JTと共同で開発を進めておりました「リオナ錠」につきまして、本年5月から販売を開始した他、「シダトレン スギ花粉舌下液」につきまして、本年1月に国内で製造販売承認を取得いたしました。また、ALK-Abelló A/S(以下、ALK社)から導入した「TO-204」、「TO-205」につきましては、2013年12月に製造販売承認申請を実施し、JTと共同で開発を進めておりますヒスタミン二塩酸塩製剤「JTE-350」につきましては、現在承認申請に向け、準備中です。

なお、当事業年度の研究開発費の総額は6,662百万円となりました。

研究開発費の推移 (単位:億円)



※決算期変更に伴い、2014年度は2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月決算になります。



## Focus

### 減感作療法(アレルギー免疫療法)とは?

アレルギー疾患の原因となるアレルギーを、低濃度、少量から投与し、徐々に増量、高濃度へ移行させ、アレルギーに対する過敏性を減少させる治療法です。

日本では現在、注射による治療のみが健康保険の適応となっています。当社では、より利便性の高い舌下投与による減感作療法(アレルギー免疫療法)薬の開発に取り組んでいます。



## 主要な研究開発品 (2014年4月24日)

開発番号 [製品名]	予定適応症等
<b>TO-194SL</b> [シダトレン スギ花粉舌下液]	スギ花粉症 (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)
<b>TO-203</b>	室内塵ダニアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎) (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)
<b>TO-204</b>	室内塵ダニアレルギー疾患 (喘息およびアレルギー性鼻炎) (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)
<b>TO-205</b>	アレルギー性疾患のアレルゲンの確認 (アレルゲン検査薬(室内塵ダニ))
<b>TO-206</b>	スギ花粉症 (減感作療法(アレルギー免疫療法)薬)
<b>JTE-350</b>	アレルギー皮膚テスト実施時の陽性コントロール(ヒスタミン二塩酸塩製剤)

※ 厚生労働省主催の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会



▶Phase I (第I相臨床試験) …少数の健康な方を対象として、治験薬の安全性を確認します。

▶Phase II (第II相臨床試験) …少数の患者さんを対象として、治験薬の有効性や安全性とともに、投与する量や方法等を確認します。

▶Phase III (第III相臨床試験) …多数の患者さんを対象として、治験薬と既存薬またはプラセボ(偽薬)との比較試験により、有効性や安全性を確認します。

現在)

剤形等	開発段階(国内)					備考
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認	
舌下液					承認	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社開発</li> <li>● 2014年1月17日に製造販売承認取得</li> </ul>
舌下錠		Phase II/III				<ul style="list-style-type: none"> <li>● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> <li>● 自社開発</li> </ul>
注射剤				申請		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> <li>● 自社開発</li> <li>● 2013年12月24日に製造販売承認申請</li> </ul>
注射剤				申請		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ALK社と日本における独占的開発・販売権に関するライセンス契約を締結</li> <li>● 自社開発</li> <li>● 2013年12月24日に製造販売承認申請</li> </ul>
舌下錠	Phase I					<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社開発</li> </ul>
注射剤				申請準備中		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ALK社と日本における独占的開発・商業化権に関するライセンス契約を締結</li> <li>● JTとの共同開発</li> </ul>

議川における開発企業募集品であります。

## スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「シダトレン スギ花粉舌下液」の国内製造販売承認取得

当社は、スギ花粉症を対象とした減感作療法(アレルギー免疫療法)薬「シダトレン スギ花粉舌下液」(以下、シダトレン)について、「スギ花粉症(減感作療法)」の効能・効果で、2014年1月、日本国内において製造販売承認を取得しました。

スギ花粉症は、スギ花粉によって生じるアレルギー疾患の総称で、主にアレルギー性鼻炎とアレルギー性結膜炎を生じます。ひとつの全国調査によると、国民のおよそ20%が花粉症に罹患していると考えられており、そのうち約70%はスギ花粉症であると推察されています。

(参考:「的確な花粉症の治療のために」平成22年度厚生労働科学研究補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業より)

シダトレンは国内で初めて承認された、舌下に投与する減感作療法薬であり、従来から施行されてきた皮下注射による減感作療法と比べ、自宅での服薬が可能であり、注射による痛みもなく治療ができること等が特徴です。

当社は、シダトレンがスギ花粉症治療の新たな選択肢として貢献できることを期待しており、10月以降の発売へ向けて努力を続けてまいります。

### 減感作療法(アレルギー免疫療法)専門サイト「トリーさんのアレルギー免疫療法ナビ」オープン

当社では、減感作療法(アレルギー免疫療法)に関する正確な情報の普及のため、一般向け情報提供ウェブサイトを開発いたしました。当サイトでは、スギ花粉症をはじめとするアレルギー疾患により引き起こされる花粉症の症状やメカニズムの説明から、その治療法であるアレルギー免疫療法についてわかりやすく説明しています。



### もっと知りたいスギ花粉症



### アレルギー免疫療法を知ろう



## 高リン血症治療剤「リオナ錠250mg」新発売

当社は、高リン血症治療剤「リオナ錠250mg」(以下、リオナ錠)について、2014年5月12日に販売を開始いたしました。リオナ錠は、クエン酸第二鉄水和物を有効成分とする新規リン吸着剤であり、消化管内で鉄とリン酸が結合し体内へのリンの吸収を抑制することにより、血清リン濃度を低下させる効果があります。

透析中並びに保存期の慢性腎臓病(CKD)患者の多くは、腎臓からのリン排泄が低下することにより高リン血症を発症します。高リン血症状態が持続すると、臓器や関節周囲に石灰沈着が生じやすくなります。特に血管壁での石灰沈着は動脈硬化の原因となり、心筋梗塞や狭心

症を発症する危険性が高くなることが指摘されています。また、副甲状腺ホルモンの分泌亢進に伴う二次性副甲状腺機能亢進症により骨病変を引き起こし、日常生活動作やQOL(Quality of Life)に影響を及ぼすことが示されています。このため、透析患者のみならず、透析に至る前の保存期CKD患者においても、血清リン濃度を適正値に保つことは大変重要です。

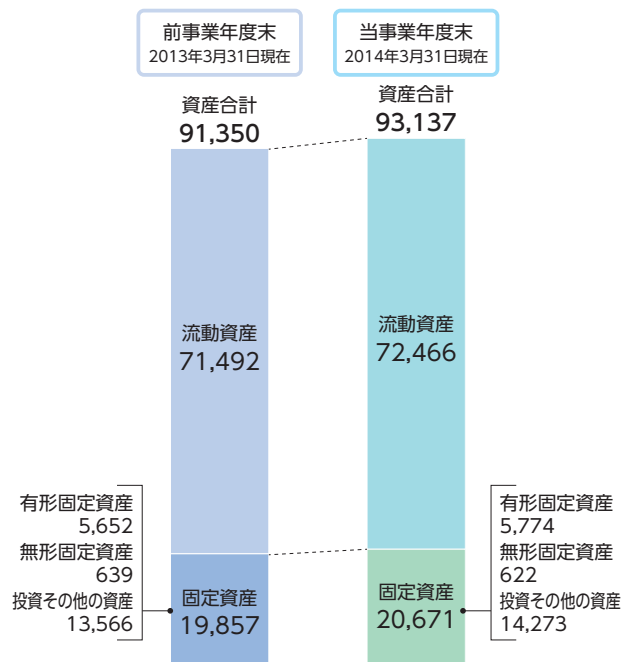
当社は、透析中並びに保存期CKD患者様の高リン血症治療において、リオナ錠が新たな選択肢として貢献できるものと期待しています。



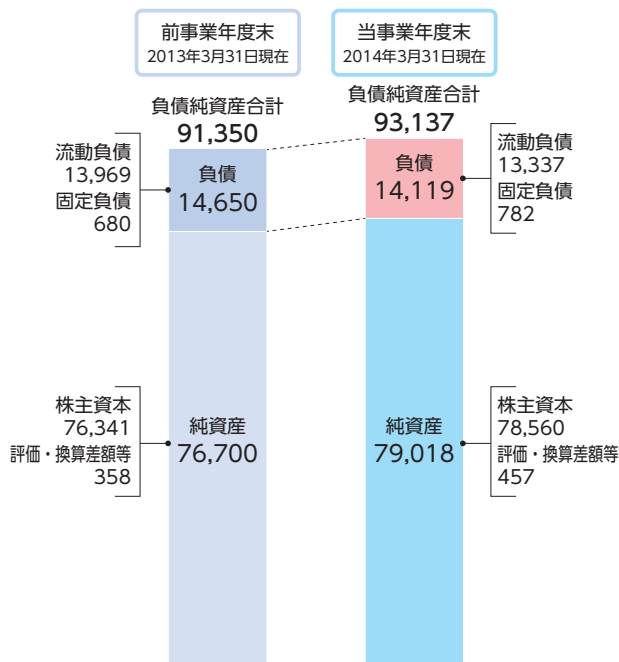
# 財務諸表の概要

## 貸借対照表の概要 (単位：百万円)

### 資産の部



### 負債・純資産の部



### ●資産の状況

当事業年度末の総資産は、93,137百万円と前事業年度末に比べ1,787百万円(2.0%)増加しました。これは、有価証券が12,392百万円、現金及び預金が5,497百万円減少しましたが、キャッシュ・マネージメント・システム預託金が14,383百万円、売掛金が3,911百万円、投資有価証券が1,328百万円増加したこと等によるものです。

### ●負債及び純資産の状況

負債につきましては、14,119百万円と前事業年度末に比べ530百万円(3.6%)減少しました。これは、買掛金が708百万円、未払法人税等が489百万円増加しましたが、未払金が2,282百万円減少したこと等によるものです。

純資産につきましては、79,018百万円と前事業年度末に比べ2,317百万円(3.0%)増加しました。これは、剰余金の配当が1,132百万円、当期純利益が3,352百万円となったこと等によるものです。

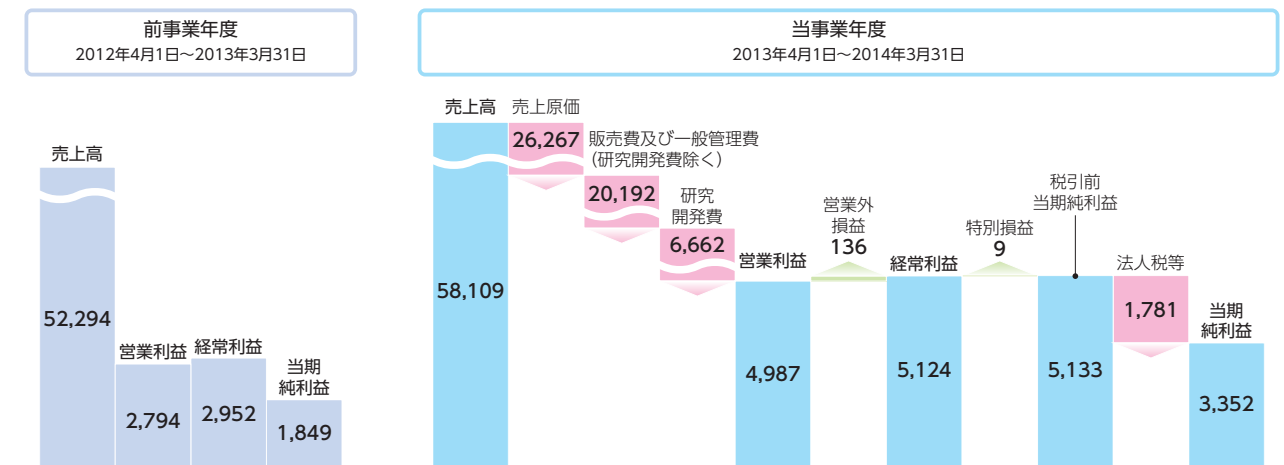
▶▶▶ 詳しい財務情報は当社IRサイトをご覧ください。

鳥居薬品 IR

検索

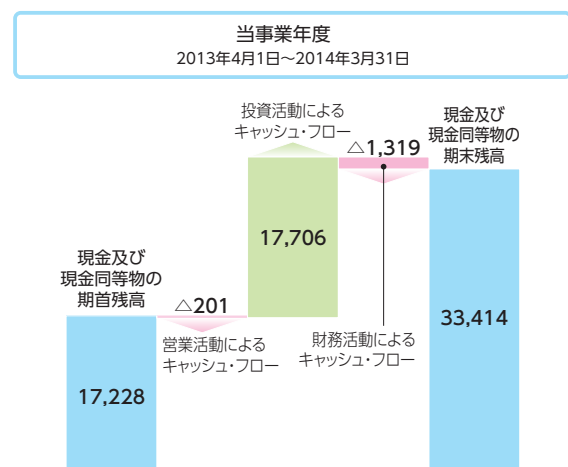
## 損益計算書の概要

(単位：百万円)



## キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



### ● キャッシュ・フローの状況

当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は、33,414百万円と前事業年度末に比べ16,186百万円(94.0%)増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益が5,133百万円となりましたが、売上債権の増加額が3,918百万円、未払金の減少額が2,305百万円となったこと等により201百万円の支出となりました。(前事業年度は151百万円の収入)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有価証券の取得による支出が6,497百万円となりましたが、有価証券の売却及び償還による収入が23,200百万円となったこと等により17,706百万円の収入となりました。(前事業年度は874百万円の収入)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払額が1,132百万円となったことにより1,319百万円の支出となりました。(前事業年度は1,181百万円の支出)

# 株式の状況

Stock Information

(2014年3月31日現在)

## 株式数

発行可能株式総数	54,000,000株
発行済株式総数	28,800,000株

## 株主数

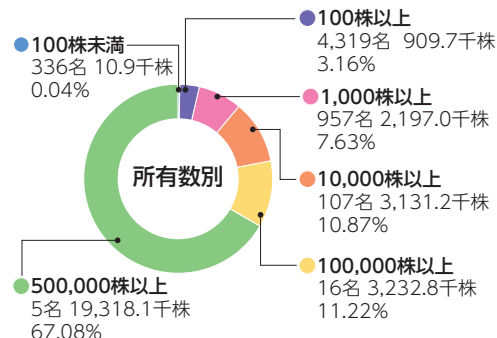
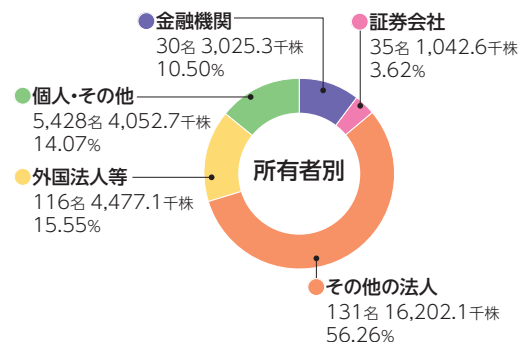
株主数 (単元未満株主を含む)	5,740名
-----------------	--------

## 大株主

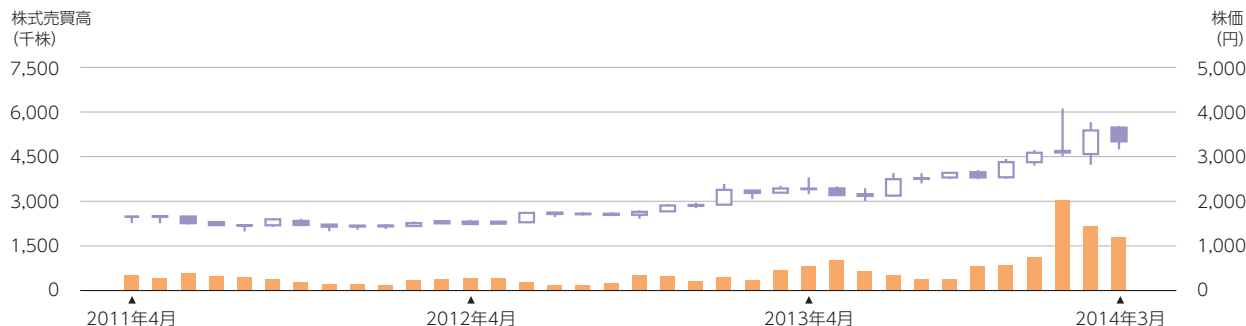
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本たばこ産業株式会社	15,398.8	53.46
ロイヤルバンクオブカナダトラストカンパニー(ケイマン)リミテッド	1,921.9	6.67
立花証券株式会社	748.5	2.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	692.8	2.40
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	556.1	1.93
株式会社三井住友銀行	340.8	1.18
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	302.8	1.05
鳥居薬品従業員持株会	255.1	0.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	252.6	0.87
株式会社みずほ銀行	210.0	0.72

(注)上記の他、当社が保有する自己株式数は499.7千株(持株比率1.73%)であります。

## 株式分布状況



## 株価および株式売買高の推移 (2011年4月~2014年3月)





### 会社概要

(2014年3月31日現在)

商号	鳥居薬品株式会社
設立	1921年(大正10年)11月1日
資本金	5,190百万円
主要な事業内容	医薬品の製造・販売
従業員数	1,009名 (注)従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人数であります。
本社	〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル TEL:03-3231-6811(代表)
主な事業所	札幌支店、仙台支店、北関東支店(高崎)、 南関東支店(さいたま)、東京支店、横浜支店、 名古屋支店、京都支店、大阪支店、神戸支店、 高松支店、広島支店、福岡支店、 南九州支店(熊本)、佐倉工場、 研究所(佐倉工場内)

### 役員

(2014年6月25日現在)

#### 取締役・監査役

取締役会長	松尾 紀彦	取締役	假屋ゆう子
代表取締役社長	高木正一郎	取締役	鳥養 雅夫
代表取締役副社長	金谷 宏	常勤監査役	長 誠次
専務取締役	籠橋 雄二	常勤監査役	矢部 昌平
常務取締役	田村 明彦	監査役	會澤 恒
常務取締役	梅田 高弘		

#### 執行役員

執行役員	林 秀岳	執行役員	藤原 勝伸
執行役員	相川 由幸	執行役員	太田 尚
執行役員	古谷 幸友	執行役員	野田 優
執行役員	千葉 昌	執行役員	森崎 信也
執行役員	末吉 廣忠		

(注)1. 取締役 鳥養 雅夫は、社外取締役であります。

(注)2. 監査役 長 誠次、會澤 恒は社外監査役であります。

(注)3. 取締役 鳥養 雅夫、監査役 會澤 恒は東京証券取引所の規則に定める独立役員として同取引所に届け出ております。

## 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで (2014年6月25日開催の第122回定時株主総会において、事業年度を従来4月1日から翌年3月31日までとしていたものから、上記に変更しております。ただし、第123期は、2014年4月1日から2014年12月31日までの9ヶ月決算となります。)
定時株主総会 基準日	毎年3月 定時株主総会・期末配当：毎年12月31日 中間配当：毎年6月30日(ただし、第123期は、9月30日を中間配当基準日とします。)
公告方法	日本経済新聞に掲載
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

### 住所変更、単元未満株式の 買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

## ◆ ホームページのご案内

当社ホームページの「株主・投資家の皆様へ」では、決算短信等のIR情報をご覧ください。

<http://www.torii.co.jp/ir/index.html>

TOPページ



鳥居薬品

検索

IRページ



### 将来に関する記述等についてのご注意

本資料に記載しております業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。したがって、実際の業績等は、様々な要素により、これらの業績見通し等とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に関わらず、常に当社が、将来の見直しを見直すとは限りません。

なお、現時点において、実際の業績等に影響を与えるリスクや不確実な要素としては、以下のような事項を挙げることであります。(かかるリスクや不確実な要素はこれらの事項に限定されるものではありません。)

- 薬事法その他の法令または規制の変化
- 薬価の決定、改定
- 副作用の発現
- 研究開発の遅延または中止
- 製商品の供給停止
- 訴訟の提起

## 鳥居薬品株式会社

〒103-8439 東京都中央区日本橋本町3-4-1 トリイ日本橋ビル  
TEL 03-3231-6811 (代表)

